

令和7年度 学校図書館活用計画・評価シート

白地部分：計画策定時記入（年度当初）

水色部分：評価時記入（年度末）

足立区立栗島中学校 校長 小山 節

1 学校教育目標

人権尊重の精神を基盤とし、規範意識と豊かな個性、創造力をもって社会に貢献しようとする精神を培い、心身ともに健やかで夢や希望を実現する自立した人を育てる教育を推進する。

- ・進んで学ぶ生徒
- ・思いやりのある生徒
- ・根気強くやり抜く生徒

2 現状の学校図書館の課題

- ・本を読む習慣のない生徒が多く、主体的に図書館を利用することがない。
- ・授業で図書館を利用する時間の確保が難しく、一人一台端末の整備を踏まえた学校図書館の利活用が進んでいない。
- ・図書館が狭く、1クラスの全生徒が一斉に落ち着いて学習するスペースの確保が難しい。

3 今年度の学校図書館の重点目標

- ・学校図書館を「読書センター」、「学習・情報センター」として利用するように、学校体制で組織的に推進する。
- ・生徒の心のオアシスとして、居場所づくりの機能を果たす。
- ・生徒の読書活動を支援し、全校体制で朝読書を推進するとともに、様々な情報を効率的に駆使できるように指導する。

4 今年度の重点的な取組

- ・図書館で学習が円滑にできるように、環境の整備に努め、書架の配置を工夫する。
- ・図書委員を中心に朝読書を推進して読書時間の確保に努め、足を運びやすい図書館づくりを目指す。
- ・生徒の図書館利用時間を増やすために、学校司書の対応時間や対応の仕方を工夫する。

5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

教科	内容（学校図書館の図書や資料を活用して取り組む単元等）
国語	① 情報収集の達人になろう ② メディアの特徴を生かして情報を集めよう ③ 読書を楽しむ、「私の一冊」を探しにいこう
社会	① 人々の生活と環境 ② 身近な地域の調査 ② 私たちの課題—持続可能な社会を目指して—
音楽	①日本の民謡 ②舞台芸術—西洋と日本の芸術— ③音楽史
英語	①Favorite Person ②Research Our Topic ③Japanese Culture
保健	①②③スポーツの祭典に関するレポート ①②③健康な生活と疾病の予防

実践の評価

- ・国語では、1学年の「竹取物語—蓬萊の玉の枝から」の単元において、図書館の蔵書と中央図書館の配送を活用して授業を展開することができた。また、図書室の蔵書とともに生徒の作品を展示し、他の生徒の読書活動への関心を高めることができた。
- ・英語では、「Research Our Topic」の授業で図書館の蔵書から関心のある事柄について調べ、発表のためのスライドと原稿を作成した。
- ・スーパーバイザーによる模擬授業を行い、図書館の蔵書から情報を集め、資料作成を行う手順を改めて確認した。

6 図書館運営計画

(1) 日常的な取り組み

- ① 朝読書の推進 ② 昼休みの本の貸し出し ③ 学級文庫の設置 ④ 放課後の自習室利用

(2) 主な行事等の取り組み

- ① 読書週間スタンプラリー一年2回実施（春季・秋季） ② 貸出ランキングの集計

(3) 図書委員会などの取り組み

- ① 読書新聞による本の紹介 ② POP作り等本の紹介 ③ ブックトークの実践

(4) 環境整備の取り組み

前年度に引き続き書架の整理を進め、館内の利用スペースの確保に努める。

(5) 司書・外部との連携

総合的な学習の時間「立志」に必要な本の選定を適切に行い取り寄せる。

実践の評価

- ・使いやすい図書館を目指し、ディスプレイや書架表示、案内図などを工夫した。
- ・蔵書調査を行い、破損図書や紛失図書を把握し、除籍作業や修繕作業を進めた。
- ・全校生徒に向けて、図書委員会が作成した図書新聞を掲示したり、給食コラボを行ったりして図書室利用のPRにつなげた。
- ・学級文庫の設置を行い、校内における読書活動を推進した。

7	学校図書館利活用に関する成果目標	達成基準	達成状況
①	ICTの活用にとどまらないように、本や新聞を活用し、複数の媒体から情報を収集させる。	図書館を利用した学習の実施 (各学年・年4回)	全学年、4回以上学習に活用（達成）
②	朝読書を行い、生徒が年間で5冊以上の本を読むように導く。	年間平均貸出冊数 (1人5冊)	年間平均貸出冊数一人5.3冊（達成）
③	年間の学習指導内容に図書館を活用した内容を入れ、教科担当と司書が連携して授業を実施する。	授業で図書や資料を活用した割合 (年間30%)	活用割合は20%程度（未達成）

8 学校図書館全体に関する自己評価

- ・学校司書の働きにより、季節の展示や蔵書案内の設置を行うことで生徒が利用しやすい環境となった。
- ・新聞閲覧コーナーを設けたことで、生徒が身近に新聞に触れる機会を提供することができた。
- ・配慮を要する生徒の居場所として図書館が機能を果たすことで、学校が安心して過ごせる場所となっている。また、普段の休み時間や放課後に読書をするだけでなく、交流の場としても機能することで、学校図書館が居場所づくりとしての大きな役割を果たすことができた。
- ・引き続き蔵書を増やすとともに、新書を精選して、生徒が多くの良い本に触れる機会を作る。
- ・今後は読書活動推進のため、朝読書との関連を図る取り組みを実施していく。